

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	仙台リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人仙台北学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

在学者その他の利害関係人から請求があった場合に限り、本学園の理事等に正当な理由がある場合を除いて、これを郵送にて公表する

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現職 学校法人理事長	自 2021年4月 1日 至 2024年3月 31日	教務全般
非常勤	現職 私立大学教授	自 2021年4月 1日 至 2024年3月 31日	教務全般
(備考) 役員現在数 11名（常勤理事 2名、非常勤理事 9名、監事 2名）より一部抜粋			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	仙台リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人仙台北学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業計画の作成</p> <p>次年度の授業計画の立案については、前年度1月に実施する教員会議において、担当教員の選定を行います。その上で、学科毎に仮シラバスを作成し再度教員会議にて授業内容のつき合せ、学生評価が適切に実施できているかの相互確認を実施し作成します。</p> <p>授業計画の公表</p> <p>年度開始前に本学園ホームページにて理学療法学科及び作業療法学科の学年毎に公表するとともに、年度はじめの学生オリエンテーションにて該当学生へのシラバス配布ならびに説明を実施しています。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/syllabus-2023PT1.pdf</p> <p>https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/syllabus-2023PT2.pdf</p> <p>https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/syllabus-2023PT3.pdf</p> <p>https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/syllabus-2023OT1.pdf</p> <p>https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/syllabus-2023OT2.pdf</p> <p>https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/syllabus-2023OT3.pdf</p>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績評価の方法

授業科目の成績評定は各学期末に行う試験・実習の成績・履修状況等を総合的に勘案して、試験やレポート・OSCEによって行います。また試験の結果は各学科責任者（学科長）によって適正に試験が実施されたか確認を得ています。最終的な単位の認定は学年末に実施される単位認定会議にて協議のもと学校長によって認定され、進級ならびに卒業が認定されます。

学修が適切になされているかを授業経過の中で小テスト等を用いて評価し、必要に応じて補習・補講を実施するなど学生の学習成果を随時確認するように努力しています。

欠席した授業については補填課題等を確実に実施し、授業内容を適切に理解した状態で単位を認定させています。

成績評価の基準

各科目の総合成績は 100 点を満点とし次の区分にて評定します。

優：80 点以上

良：70～79 点まで

可：60～69 点まで

不可：59 点以下

やむを得ず試験を受けることが出来なかった者は追試験を受験することができます。

また、不可の科目については再学習を徹底させたのち申請にて再試験を受験することができます。

授業科目の出席時間数が講義及び演習及び実習において 5 分の 4 に達しない者は、その科目について評定を受けることができません。(ただし学校長が認める正当な理由がある場合にはこの限りではありません。)

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAによる学生評価

本校における GPA 算出方法は別紙をご参照ください。

学生毎に算出された GPA は学年末に学生に交付される成績表に記載され、学生ならびに保護者へ通知されます。この時各ランクに該当学生数を記載することにより、該当学生が学年のどの位置にあるかを把握できるように努めています。(成績表見本参照)

公表方法

本学園ホームページにて客観的な指標の算出方法を公表する。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/GPAkijyun.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定について 本校の教育理念として、確かな知識と豊かな感性を育み、障害を持つ人々や高齢者のよき援助、支援者として主体的に活動できる学生の育成を目的としています。予防としての保健活動やスポーツ活動・リハビリテーション医療や地域リハビリテーションなど、全体を通して活躍する理学療法士・作業療法士の養成を目指しています。</p> <p>このことから本校の卒業の認定においては、所定の授業科目のすべての試験に合格し、かつ卒業要件を満たす単位を履修したものについて卒業判定会議を経て学校長が卒業を認定します。</p> <p>公表方法 本学園ホームページにて卒業の認定に関する方針を公表します。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/sotugyou.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	仙台リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人仙台北学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/
収支計算書又は損益計算書	https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/
財産目録	https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/
事業報告書	https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/
監事による監査報告（書）	https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
3年		3255時間	1365 時間	675 時間	1215 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
175人		193人	0人	9人	0人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 次年度の授業計画の立案については、前年度1月に実施する教員会議において、担当教員の選定を行います。その上で、学科毎に仮シラバスを作成し再度教員会議にて授業内容のつき合せ、学生評価が適切に実施できているかの相互確認を実施し作成します。 年度開始前にHPにて公表するとともに、年度はじめの学生オリエンテーションにて該当学生へのシラバス配布ならびに説明を実施しています。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価の基準 各科目の総合成績は100点を満点とし次の区分にて評定します。 優：80点以上 良：70～79点まで 可：60～69点まで 不可：59点以下 やむを得ず試験を受けることが出来なかった者は追試験を受験することができます。また不可の科目については再学習を徹底させたのち申請にて再試験を受験することができます。 授業科目の出席時間数が講義及び演習及び実習において5分の4に達しない者は、その

科目について評定を受けることができません。(ただし学校長が認める正当な理由がある場合にはこの限りではありません。)

成績評価の方法

授業科目の成績評定は各学期末に行う試験・実習の成績・履修状況等を総合的に勘案して、試験やレポート・OSCE によって行います。また、試験の結果は各学科責任者(学科長)によって適正に試験が実施されたか確認を得ています。最終的な単位の認定は学年末に実施される単位認定会議にて協議のもと学校長によって認定され、進級ならびに卒業が認定されます。

学修が適切になされているかを授業経過の中で小テスト等を用いて評価し、必要に応じて補習・補講を実施するなど学生の学習成果を随時確認するように努力しています。欠席した授業については補填課題等を確実に実施し授業内容を適切に理解した状態で単位を認定させています。

卒業・進級の認定基準

(概要)

卒業の認定について

本校の教育理念として、確かな知識と豊かな感性を育み、障害を持つ人々や高齢者のよき援助、支援者として主体的に活動できる学生の育成を目的としています。予防としての保健活動やスポーツ活動・リハビリテーション医療や地域リハビリテーションなど、全体を通して活躍する理学療法士・作業療法士の養成を目指しています。

このことから本校の卒業の認定においては、所定の授業科目のすべての試験に合格し、かつ卒業要件を満たす単位を履修したものについて卒業判定会議を経て学校長が卒業を認定します。

学修支援等

(概要)

担任制度を設けることにより、学生個人の能力や課題を認知しやすくしています。また通年を通して個人面談を実施し、学生個人の理解度の聴取や自宅学習などについての指導を実施しています。

授業の時間以外に補習・補講を実施し、学生の理解不十分な科目について支援を実施しています。

授業の形態についてもアクティブラーニングを多用し、自ら学び理解するという学習意欲の向上ならびに知識の定着環境を意図的に設けています。

国家試験への対策として特別講義等を実施しています。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	人 (%)	36人 (100%)	人 (%)

(主な就職、業界等)

病院、診療所、介護老人保健施設などの医療・介護施設

(就職指導内容)

3年次に就職セミナーを複数回実施し、就職活動の進め方や、面接、小論文の書き方等を指導

(主な学修成果(資格・検定等))

理学療法士国家試験 受験資格、福祉住環境コーディネーター、アトサポータ上級認定

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
176人	2人	1.1%
(中途退学の主な理由) 進路の変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) <p>入学前教育を実施しています。入学前教育の目的として、①学習意欲の継続—入試／合格発表から入学までの約半年間あり、この期間でこれまでの学習習慣を崩さないようにします。②新たな学びの事前学習—医療系は高校までの内容とは違い専門的な内容を多く学ぶため、学習内容のカルチャーショックを軽減します。③入学までに心の不安を軽減—学習内容の専門性以外にも生活環境が大きく変わる学生のために心理的ケアを実施します。大きく3つの目標を達成するために、具体的には専門科目の学習に緩やかに移行できるようC B T (Web コンテンツ) やテキストを提供します。また、スクーリングとして入学までに3回程度来校させ、事前学習の進捗確認や理解度テストを実施します。また、保護者を含め面談を実施します。</p> <p>初年次教育に力を入れている。本学園の学術交流協定校である学校法人智晴学園琉球リハビリテーション学院(儀間智理事長／沖縄県国頭郡金武町)の全面協力のもと、3泊4日の共同生活・協同活動を通して、新入生に対する入学前教育から初年次教育への円滑な移行を図るとともに、海洋リハビリテーションを体験する総合的教育プログラムであります。また、同学院の学生及び教職員との交流の場も設けられ、同志が身近にいることを肌で感じることで士気の維持向上につながります。そして、アメリカンキャンピレッジや美ら海水族館などの観光も含まれており、学修以外の時間も多く配分され、本学生と教職員がより多くの時間を共有することで、その後における教育効果を期待しています。</p> <p>在学中は定期的な面談の中で、学生の学習意欲や家族的な背景について情報収集を行い、継続的な学習が困難と予想される学生については頻回に面談を実施しています。また、その情報はすべての教員にて共有され、多角的な支援を目指しています。また、早期から保護者への連絡や面談を実施し、情報の共有や支援の要請を実施しています。</p> <p>友人関係などを豊かにし共に学ぶことのできる円滑な学修環境を整えるために、学外での課外活動などを年に複数回実施し、学生同士の仲間づくり支援を実施しています。臨床心理や学生心理について習熟している教員を配置し、完全に守秘義務の発生する環境での相談体制をとっています。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	作業療法学科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年		3285時間	1470時間	495時間	1320時間	時間	時間

	昼間		3 2 8 5 時間		
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
75 人	80 人	0 人	6 人	0 人	6 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>次年度の授業計画の立案については、前年度 1 月に実施する教員会議において、担当教員の選定を行います。その上で、学科毎に仮シラバスを作成し再度教員会議にて授業内容のつき合せ、学生評価が適切に実施できているかの相互確認を実施し作成します。</p> <p>年度開始前に HP にて公表するとともに、年度はじめの学生オリエンテーションにて該当学生へのシラバス配布ならびに説明を実施しています。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価の基準</p> <p>各科目の総合成績は 100 点を満点とし次の区分にて評定する</p> <p>優：80 点以上</p> <p>良：70～79 点まで</p> <p>可：60～69 点まで</p> <p>不可：59 点以下</p> <p>やむを得ず試験を受けることが出来なかった者は追試験を受験することができます。また、不可の科目については再学習を徹底させたのち申請にて再試験を受験することができます。</p> <p>授業科目の出席時間数が講義及び演習及び実習において 5 分の 4 に達しない者は、その科目について評定を受けることができません。（ただし学校長が認める正当な理由がある場合にはこの限りではありません。）</p> <p>成績評価の方法</p> <p>授業科目の成績評定は各学期末に行う試験・実習の成績・履修状況等を総合的に勘案して、試験やレポート・OSCE によって行います。また、試験の結果は各学科責任者（学科長）によって適正に試験が実施されたか確認を得ています。最終的な単位の認定は学年末に実施される単位認定会議にて協議のもと学校長によって認定され、進級ならびに卒業が認定されます。</p> <p>学修が適切になされているかを授業経過の中で小テスト等を用いて評価し必要に応じて補習・補講を実施するなど学生の学習成果を随時確認するように努力しています。欠席した授業については補填課題等を確実に実施し授業内容を適切に理解した状態で単位を認定させています。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定について</p> <p>本校の教育理念として、確かな知識と豊かな感性を育み、障害を持つ人々や高齢者のよき援助、支援者として主体的に活動できる学生の育成を目的としています。予防としての保健活動やスポーツ活動・リハビリテーション医療や地域リハビリテーションなど、全体を通して活躍する理学療法士・作業療法士の養成を目指しています。</p> <p>このことから本校の卒業の認定においては、所定の授業科目のすべての試験に合格し、かつ卒業要件を満たす単位を履修したものについて卒業判定会議を経て学校長が卒業を認定します。</p>

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>担任制度を設けることにより、学生個人の能力や課題を認知しやすくしています。また、通年を通して個人面談を実施し、学生個人の理解度の聴取や自宅学習などについての指導を実施しています。</p> <p>授業の時間以外に補習・補講を実施し、学生の理解不十分な科目について支援を実施しています。</p> <p>授業の形態についてもアクティブラーニングを多用し、自ら学び理解するという学習意欲の向上ならびに知識の定着環境を意図的に設けています。</p> <p>国家試験への対策として特別講義等を実施しています。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	0人 (0%)	21人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
病院、診療所、介護老人保健施設などの医療・介護施設			
(就職指導内容)			
3年次に就職セミナーを複数回実施し、就職活動の進め方や、面接、小論文の書き方等を指導。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
理学療法士国家試験 受験資格、福祉住環境コーディネーター、アトサポータ上級認定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法学科	150,000円	1,000,000円	500,000円	実習費 500,000円

作業療法学科	150,000円	1,000,000円	500,000円	実習費 500,000円
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/2021_jikohyouka.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 学校関係者評価委員会が報告された自己評価報告書に対して協議・評価し学校評価報告書を作成・報告します。 体制： 学校長が関係業界関係者、卒業生、教育に関し知見を有する者に委員を委託します。 主な評価項目： ①教育理念・目標、②学校運営、③教育活動、④学修成果、⑤学生支援、⑥教育環境、⑦学生の受入れ募集、⑧財務、⑨法令の遵守、⑩社会貢献・地域貢献、⑪国際交流 活用方法： ①運営、②自己評価、③学校関係者評価をPDCAサイクルで実施します。 ②自己評価及び③学校関係者評価を適時実施（最低年1回）は実施します。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
宮城県理学療法士会 会長	自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	関係業界関係者
宮城県作業療法士会 副会長	自 2023年4月1日 至 2023年3月31日	関係業界関係者
宮城県作業療法士会 副会長	自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	関係業界関係者
宮城県立がんセンター	自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	関係業界関係者
医療法人 理事長（医師）	自 2023年4月1日 至 2024年3月31日	関係業界関係者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

--

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

https://www.senreha.ac.jp/basic_infomation/2021_gakkoukankeisya.pdf

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H104391050028
学校名	仙台リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人仙台北学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		29人	29人	29人
内訳	第Ⅰ区分	-	-	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				29人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	前半期	後半期	0人
			0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準時間数の6割以下)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。